

## 国際トレンド



国際会計士連盟 (IFAC)  
中小事務所アドバイザーグループ  
メンバー

きんじょう たくま  
**金城 琢磨**

# IFAC-中小事務所アドバイザーグループ (SMP AG) ニューヨーク会議報告

2023年10月16日及び17日の2日間で、国際会計士連盟 (IFAC)・中小事務所アドバイザーグループ (Small and Medium Practices Advisory Group: SMP AG) の対面とウェブによるハイブリッド形式の会議が開催され、メンバーである筆者が出席した。本稿では、この会議の概要を報告する。なお、SMP AGの会議は非公開であり、議題に関連する資料の公表も行われておらず、限られた内容であることに留意されたい。

## 1 はじめに

SMP AG委員長のMonica Foerster氏から、前回会議議事録の承認、SMP AGの2023年作業計画の進捗報告、アウトリーチ活動の実績及び今後の計画などについて発表された。なお、今回の2日間の会議の全体像については下表のとおりである。

今回も多岐にわたる議題が盛り込まれており、各セッションで十分な時間配分が

Agenda Item					
2023年10月16日(1日目)			2023年10月17日(2日目)		
Section 1	SME/SMP ワークプラン2023 アップデート	15分	Section 6	SMPのための効果的な研修	120分
Section 2	IAASBプロジェクトアップデート ISA240「財務諸表監査における不正」改訂	105分	Section 7	2024ワークプラン及びSSBsへのインプット	100分
Section 3	ACCA(英国勅許公認会計士協会)リサーチ SMEサポートにおける課題、贈収賄対応等	100分	Section 8	IESBAプロジェクトアップデート サステナビリティ及び専門家の利用	90分
Section 4	AI技術の概要とSMPにおける利活用	120分	Section 9	サステナビリティプロジェクト及び国際教育基準	60分
Section 5	人材管理及び会計士専門家の魅力	70分			

なされているが、いざ意見交換が始まると各メンバーから多くの意見が発信され、時間切れとなる場面も多くみられた。

## 2 IAASBプロジェクトアップデート

IAASBテクニカルディレクターであるWillie Botha氏からIAASBプロジェクト概要の説明があった。主な内容は、サステナビリティ報告の保証、不正(ISA240)及び複雑でない企業の監査(ISA for LCE)等であり、詳細はIAASBのボードメンバーである甲斐幸子氏からの報告<sup>1</sup>にもあるので省略し、ここでは会議概要をお伝えする。

IAASBでは全体の70%程度を監査に係るプロジェクトの議論に費やしており、今後のホットなトピックスとしては、上記のサステナビリティ関係や不正などに加えて、ISA500「監査証拠」にテクノロジーをどのように組み込んでいくかについて熱心に取り組まれているそうである。また、すでに改訂されたISA540「会計上の見積りの監査」及びISA315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」の適用後レビューも控えており、対応すべき課題は依然として多岐にわたっている。

SMP AGに大きく影響すると思われる、複雑でない企業の監査向け国際監査基準について、メンバーからは、通常の国際監査基準と比較すると保証水準が低いのではないかといった印象があり、財務諸表利用者に期待ギャップが生じるおそれがあるのではないかと懸念の声が聞かれた。この点について、IAASBとしては通常の国際監査基準と同じ保証水準を前提とした基準の開発を行っている旨の回答がなされた。

## 3 ACCAリサーチ

英国勅許公認会計士協会(ACCA)では、中小事務所や中小企業における働き方やイノベーションといった課題について調査研究が進められており、人材不足、ESG対応及びIT等の急速な技術革新への対応や将来への展望について意見交換が行われた。ACCAでは上記のテーマに沿って、のべ100名が参加した7回のラウンドテーブルの開催やアンケート調査を行っている。中小事務所等における一番の課題は人材確保や営業投資等における費用負担であり、半数以上の56%が大きな課題であると認識している。続いて、採用面での課題を抱えている中小事務所等が44%という結果であった。その他、ESG基準への対応やイノベーションなどの項目が挙がる中で、最も関心のある領域は人材関連であり、採用以外にも優秀な従業員の流出防止や新しいスキルの開発などが課題として挙げられている。

ESG報告制度における中小事務所の関与について、Big 4との比較においては、世界的にまだまだ中小事務所の関与割合は低いことに変わりがない一方で、地域差がみられるとして、アメリカ合衆国の会計事務所ではクライアントからの相談にはほぼ応じている状況であるが、アメリカの会計事務所では限定的な対応にとどまっているそうである。いずれにしてもサステナビリティ報告・保証の分野においては、中小事務所としては、ESG専門家の欠如やクライアントからの要求に応じるだけの人材の不足が課題となっている。

これらの課題について、SMP AGのインドからのメンバーによるフィードバックは興味深く、インドでは、会計士以外の、弁護士、エンジニア、建築家、年金数理人

といった様々な専門家とのパートナーシップによる協業が行われており、ネットワーキングを強化することで、案件の獲得や人材教育、特に若いスタッフへのテクノロジーの紹介など有効に機能していることが紹介された。また、香港の中小事務所では、ESGコンサルティングを専門とする会計事務所以外の専門事務所との協業により多数の案件獲得に繋がっていることも紹介された。日本においても、将来のサステナビリティ報告・保証制度の整備に向けて、中小事務所での対応を可能とするべく、教育研修の機会の確保や、実務での事例の紹介など早急に検討していく必要があると感じた。SMP AGからスモールビジネス向けのサステナビリティチェックリスト<sup>2</sup>が公表されており、ESGの観点から考慮すべき包括的な取組みや行動がリスト化されている。また、中小事務所においては、当該チェックリストを使用して独自の取組みを開始し、今後のESG関連業務への戦略や業務提供にかかるマニュアル作成の検討に役立つことが期待されている。

## 4 会計プロフェッションの魅力発信

会計プロフェッションを目指す若者の人数が世界的に減少傾向にある中で、IFACでは会計専門家の魅力と中小事務所における人材の確保と維持を支援するための取組みとして、2頁程度のリーフレット作成を検討している。限られた情報量の中で、対象を学生にするのか、あるいは社会人にするのか、会計専門家としての報酬やその他の待遇面、保証業務における規制、業務上のリスク、業務報酬面での競争など、紹介すべき情報の種類や程度について多くの意見が出された。日本においては、日本公認会計士協会による専門学校訪問及び学生の就職志向についての意見交換を実

施している事例を説明し、また会計専門家への興味はポジティブであることを伝えた。一方で、中小事務所の情報収集が難しいというフィードバックもあったことから、ディスカッションの中で、Big 4とは異なる中小事務所の魅力を明示してはどうかと提案した。

なお、IFACでは会計専門家の魅力を発信するための専門ウェブサイト<sup>3</sup>を2023年7月に開設した<sup>3</sup>。当該ウェブサイトでは、会計専門家の魅力にとって重要であると思われる下表の8項目に分類して各コンテンツを紹介している。

## 5 SMP AGの現状と将来展望

SMP AGでは、IAASB及びIESBA等の基準設定団体への意見発信を行っているが、限られたメンバーと時間の中では一定の限界があると認識している。IT環境の変化スピードは速く、監査基準等

の改訂も短期間で多岐にわたっている中で、SMP AGでは中小企業や中小事務所支援を目的に、各国の会計士団体(PAOs)との緊密な連携を図りつつ、年4回のSMP AGの会議とは別に、IAASBでの監査基準改訂に係る分科会(IAASB Rapid Response Task Force)や倫理独立性のIESBAプロジェクトに対応する分科会(Ethics Task Force)など全部で6つの分科会が組成されており、SMP AGの各メンバー及びテクニカルアドバイザーが各分科会に所属して基準設定団体への意見発信を行っている。今後、社会的影響度の高い事業体(PIE)へのフォーカスが大きくなる中で、中小企業などへの基準適用の柔軟性が適切に議論されることを目的とした、IFACからの意見発信は重要であり、これに対応するためにはSMP AGの基盤の見直しも必要であると考えられて

いる。

いまだ検討中の課題ではあるが、従来のSMP AGメンバーとテクニカルアドバイザーにプラスして、テーマに合わせた専門家からのインプットを得たり、場合によっては企業内会計士からの意見発信も必要となるかもしれない。従来以上にPAOsとの連携を密にすることでより広範囲に意見募集することなどが検討されている。今後のSMP AGの動向については、引き続き、会議参加後の報告の中でアップデートを予定している。

### <注>

- 1 本誌2023年10月号34頁以下「国際監査・保証基準審議会(IAASB)会議報告(2023年6月会議)」
- 2 Small Business Sustainability Checklistは以下ウェブサイト参照  
[https://www.ifac.org/about-ifac/small-and-medium-practices/publications/small-business-sustainability-checklist?utm\\_source=Main+List+New&utm\\_campaign=0086e8e89a-IFAC-Release-Sustain-list-for-Small-Business&utm\\_medium=email&utm\\_term=0\\_-00b2c170b7-%5BLIST\\_EMAIL\\_ID%5D](https://www.ifac.org/about-ifac/small-and-medium-practices/publications/small-business-sustainability-checklist?utm_source=Main+List+New&utm_campaign=0086e8e89a-IFAC-Release-Sustain-list-for-Small-Business&utm_medium=email&utm_term=0_-00b2c170b7-%5BLIST_EMAIL_ID%5D)  
(2023年11月27日閲覧)
- 3 IFAC Attractiveness of the Professionは以下ウェブサイト参照  
<https://www.ifac.org/knowledge-gateway/preparing-future-ready-professionals/discussion/attractiveness-profession>  
(2023年11月27日閲覧)

カテゴリー	内容
1. 私たちのブランド及び物語	会計士を、経済、環境、社会全体をサポートする強力な倫理、価値観、機会を備えた職業であることを紹介
2. 今日の会計士の役割と機会	プロの会計士が何をしているのか、ビジネスや社会にどのように貢献しているのか、そして会計士の役割がどのように変化しているのか
3. 専門職への新たな道	世界中の研修及び教育プログラムが、会計及び関連する専門分野に参入する若い専門家にどのように貢献しているか
4. リクルートと雇用	世界中のIFAC及び会計団体から若い専門家を惹きつけ、雇用し、新人研修するための傾向と戦略
5. 人材維持	既存の会計専門人材の維持に関する考察及び定着率向上へのヒント
6. サステナビリティー大きなチャンスと責任	サステナビリティが会計専門職をどのように変えているのか、また会計士が仕事でサステナビリティの実践をどのように取り入れているのか
7. テクノロジーの力を可能にする	新興テクノロジーがどのように活用されているか、そして会計専門職を再構築する可能性
8. 公益部門への人材誘致	公益部門におけるプロの会計士の重要性を検討する

出典：IFACウェブサイト“Attractiveness of the Profession”より一部抜粋